

## 9月例会 活動報告

9月18日（金）午後、当院多目的室で、三重県精神保健福祉士協会9月例会が開かれました。参加した精神保健福祉士（以下PSW）は26名、例会のテーマは「記録についての勉強会」で、総合司会及び講師を医療福祉科宮越PSWが担当され、「記録」の講義、「記録」に関するグループワーク（以下GW）が行われました。

このGWですが、今回ワールドカフェ方式という手法で行われました。これは1995年アメリカで開発・提唱されたもので、カフェのようにリラックスした自由な雰囲気の中で、一つのテーマについて、メンバーの組み合わせを変えながら話し合いを続けることによって、生き生きとした意見の交換や、新たな発想の誕生が期待できるという考え方に基づいているものです。

今回のGWでは、次のような意見や気づきが出されました。

- ・ワールドカフェって楽しい、普段と違う新鮮さがある
- ・記録は大事、その効果の大きさを改めて感じた
- ・記録は大変で正直面倒である、記録の仕方に悩む、統一されたものがない
- ・記録の評価が低い、もっと認めてほしい、記録のための時間がきちんと取れない
- ・今後こんな記録（各種）の仕方をしていこう！という目標ができた

例会の準備段階で宮越PSWより、今回のGWの成功イメージとして、「記録って大切なことだと感じる、多くの気づきや発見を得る、今一度自分の記録について振り返る、記録（及び実践）に新たな工夫、チャレンジをする活力を得る」という話しが示されました。私を含め、今回参加した多くのPSWがそれらを達成されていたように思います。私自身、ワールドカフェ方式を体験するのは初めてで、戸惑いと期待が入り混じった中での例会でした。ただカフェというだけあって、お茶ありお菓子あり笑いありの寛いだ雰囲気の中でのGWだったので、どこか気分も穏やかで気負いもなく、落ち着いて話し合いができたように思います。特に総合司会の宮越PSWがカフェのオーナーのように場を和ませていたことも大きかったのではないのでしょうか。リラックスした雰囲気の中、楽しく参加させていただきました。

PSWは専門職の一つであり、インフォーマルなものや素人とは異なり、実践（直接支援、他機関連携など）とともに、記録という作業は欠かせません。記録の種類は様々で、日々のケース記録、カンファレンスや会議の議事録、フェイスシートやデータベースなどの各種図表、講義・講演の文書・統計資料まで、文字や記号を使って記述されたもの全てを含みます。記録は種類が多い上、いかに記録するか、誰にみってもらうか、どう公開するか、どのような効果や反応を意図し期待するのかなど慎重に考えながらするので、時間も神経も費やします。業務全体の中で比較的時間を多く費やし、時間外にすることもしばしばで、実践の前か後かに関わらずほとんどの実践に伴うものです。しかしながら記録には地味な印象があり、今回のGWの参加者からも「（記録を）もっと評価してほしい」という意見が聞かれましたが、実践と比べ評価されにくいことも確かなようです。

また別の参加者の意見で「職場内で学ぶ機会がなく個人任せにしていることに改めて気づかされました」ともあり、例えば実際の支援で、それだけやっていたら大丈夫というどのケースにも当てはまる絶対的な成功法があるわけではないように、記録の仕方も「このように書いて下さい」と一つではなく、一定の範囲内でPSW個々に任されているのが現状です。

結局は、私だけでなく多くのPSWが、良い実践とは何か、良い記録とは何か悩みながら、日々向上に励んでいることがわかりました。普段当たり前のように行っている記録について、記録とは何なのかを改めて振り返り、気づきをもたらえる良い機会になりました。